

# 介護老人保健施設しおん

症 例 概 要 患者氏名：K・T様（90代 女性 要介護3）

入院期間：平成31年1月中旬～

経過：平成30年10月上旬しおん入所。11月中旬右大腿骨骨折、手術後平成31年1月中旬再度入所される。

利用者さんの不安や想いをくみ取り、薬調整も取り入れ、ケアに出来る事を実施した事でご本人やご家族に安心して笑顔をもたらした事例。

## 内 容

Kさんをご利用中に右大腿部を骨折し、手術を受け再入所されました。退院後の環境の変化からBPSDが出現、昼とも夜ともなく「早く死にたい」「ここはどこだ」「息子どこだ」「足が動かなくなった」と大声で痛みや不安を訴えており、精神薬の調整が必要ではないかとの意見もありましたが、まずはケアで何とか改善できないものか検討を行いました。

「また歩けるようになる?」と不安に思うKさんに「痛みが良くなって、リハビリを頑張ればきっと歩けるようになりますよ」と励ましの言葉を掛け続け、日中の活動を充実させる為に、散歩、レクリエーションの参加や職員と一緒に軽作業をしながら、会話を交えて関わりを多くして離床時間も増やしていきました。足の痛みも少しずつ良くなり、歩行訓練も始められるようになると「また歩けるようになりたい、外出して大好きなアイスクリームを食べに行けるようになりたい」と前向きな声も聞かれるようになりました。

しかし、日中の活動は充実し穏やかに過ごせるようになったものの、夜間の見当識障害はなかなか改善されませんでした。Kさんご家族の面会をととても楽しみにしていましたが、ご家族はKさんの不安定な状態を心配する反面、出現するBPSDを受け入れられずに面会の際も一言二言だけの会話で帰ってしまう状態になっていた為、早急にKさんの覚醒サイクルを見直す為にDrと相談し向精神薬の調整を行いました。

調整後、夜間は眠れるようになり、日中の活動を頑張る事で笑顔も増えてきている事をご家族に伝えると「最近寝ているのですか、皆さんに迷惑かけていないですか」「安心しました、ありがとうございます、お願いします」と話し、心理的負担も減ったのか、面会時間も長くなると共にKさんと談笑される時間が増え、息子さんを見送るKさんも笑顔で手を振る姿に変わっていきました。

現在Kさんは好きなアイスクリームを食べに行く外出も叶い、歩けるようになる為に日々のリハビリや活動を積極的に取り組んでいます。今回の症例では「しおんに戻れたの、私しおん好きだから戻れて良かった」と話してくれるKさんの不安や想いをくみ取り、ご本人やご家族に安心して笑顔で暮らす為の支援が出来たと思います。さらに、Kさんが「また歩いて散歩したい」と希望を持っていただく事もできたのでそれを目指し、他職種と協働しながら実現に向け取り組んでいきたいと思っています。